

平成31年3月30日(土)に、文京キャンパスにおいて、平成30年度定時評議員会が開催され、「平成31(2019)年度学校法人拓殖大学事業計画・予算案」が審議され、原案通り承認されました。平成31(2019)年度の事業計画及び予算の概要は、次のとおりです。

I. 事業計画

◆平成31(2019)年度事業計画策定について

はじめに

創立120周年(2020年)に向けて本学の向かうべき大学教育全体の将来像として「拓殖大学教育ルネサンス2020—グランドデザイン—」を策定し、教職員一丸となって教育改革を推進しているところですが、これをより一層推進するため、また、18歳以下の人口減少が加速し大学を取り巻く環境はますます厳しい状況にある中で、予算編成に当たっては費用対効果の妥当性・適切性、既存事業の見直しなど多岐にわたり検証しました。

予算編成における取り組みとして、継続事業(経常的支出)については、節減の姿勢を堅持し当年度予算額(平成30年度)を上限に策定しました。なお、引き続き八王子国際キャンパスの活性化と施設の整備充実、学生募集対応、就職支援対応等についても優先的に実行することとしており、具体的な事業内容は、後述の「平成31(2019)年度事業概要」に示すとおりです。

2019年度事業方針について(理事長)

1. 法人運営の基本方針

(1) 時代認識

本学は、2年後の2020年に創立120周年を迎えます。この年は奇しくも半世紀ぶりに東京オリンピック・パラリンピックが開催される年でもあります。

さて、21世紀に入り、早18年が経過しますが、この間、国際社会は経済などのグローバル化が進展するなか、領土や宗教・歴史問題などによる地域紛争や対立が増殖し、世界の平和と安全に不安を与えております。

一方、国内に目を転ずれば、少子高齢化社会の中で活力ある経済や企業活動、グローバル化への対応、AI(Artificial Intelligence)・IoT(Internet of Things)等の第4次産業革命による急激な変化への対応、地域社会の振興など、わが国の将来に係わる喫緊の重要課題が山積しております。

また、大学を取り巻く環境においては、少子化が進展し、中央教育審議会大学分科会将来構想部会(平成30年6月28日)の中間まとめによると、国内の18歳人口は2017年の120万人から2030年には103万人へ、更に2040年には88万人へと減少し、また大学進学者数についても現在の約80%となる見通しであります。

このような状況下で、2019年度以降の私立大学における入学定員管理の厳格化と私学助成配分の新たなルールは教育の質向上に寄与する反面、財政面への影響が懸念され、これまで経験したことのない厳しい時代を歩んでいかねばなりません。

(2) 大学の社会的責任と本学の使命

わが国は、いわゆる「少子高齢化社会」に伴う諸問題を抱えるなか、加速するグローバル化への対応が遅れていると言われております。明治維新(1868年)以来、アジアの国々に先駆けて西洋先進国に学び、今日の「近代社会」を構築してきた歴史があり、そして、その担い手となった人材を養成してきたのが、高等教育機関としての「大学」であります。

今日、日本の大学はこの歴史に学び、そのポテンシャルを発揮して、わが国の抱える諸問題の解決に積極的に取り組み、明るい未来社会構築の担い手となる公共心に富んだ人材を育成する社会的責任を課せられております。

このような時代にあつて、本学は1900年（明治33年）に台湾協会学校として創立され、これまで海外で活躍できる人材、現地の人々と共に汗を流し、地域の福祉と発展に貢献できる「拓殖人材」を輩出してきました。本学関係者はその今日的存在価値と使命の再確認と意識向上を醸成し、その具体的教育事業を展開しなければなりません。

(3) 本執行部の取り組むべき課題

2000年の創立100周年以来取り組んできた「拓殖大学ルネサンス事業」としての文京キャンパス整備事業も2016年3月末で完了しました。

私達執行部は、この「時代認識」と「大学の社会的責任と本学の使命」に基づき、新たに「拓殖大学教育ルネサンス2020推進本部」を立ち上げ、2年後の創立120周年に向けて「教育ルネサンスグランドデザイン」に基づく教学改革及び4年目を迎えた「拓殖人材育成広報プロジェクト」や「国際協力研究機構」、更には国内外の地域社会との交流や活性化に貢献することを目的に新たに発足した「地域連携センター」の強化・充実を推進して、本学及び本法人の未来構築を図らなければなりません。そのためには、何よりもその裏付けとなる財政基盤の確立と充実が不可欠であります。現在進めている「オレンジ募金」はその一助となるものであり、全学的にその推進を図らなければなりません。

既に進行している文部科学省による入学者数の抑制政策により、私立大学等経常費補助金の取り扱いにおいては、定員管理の厳格化が求められ、加えて「平成31年度に開設しようとする学部・学科の設置及び収容定員増は、東京都特別区（23区）には原則として認めない」との法律が制定され2028年3月末までの10年間は定員増を認めないこととなりました。

これらのことは、大学は勿論のこと、法人全体の存続発展に係わる重要な経営課題であり、2030年に向けた「教学組織の改革」とその課題に対応すべく、新たな「財政改革」に取り組み、本学の明るい未来を構築しなければなりません。

2. 2019年度予算編成にあたって

(1) 基本的考え方

- ① 本法人の現在保有している限られた資産（人的財産・歴史的財産・土地・建物）を最大限に有効活用して、各設置校の発展を図るために、全ての事業について費用対効果を原則とする。
- ② 予算編成にあたっては、文部科学省による入学者数の抑制強化や、消費税増税による影響等を充分勘案し、今後一層財政基盤の充実・安定を図るべく事業計画を策定することとする。特に大学においては18歳人口の減少を踏まえ、物件費及び人件費の抑制に努めることとする。
- ③ 諸事業の取り組みにあたっては、特に入口となる学生募集力向上と出口である就職力をあげるために、その基となる教育の質と研究力の向上、及び学生生活の充実等の強化に繋がるように十分配慮し策定することとする。
- ④ 2019年度事業計画（予算）は、教育・研究関連事業への重点配分を原則とするが、事業内容についてはPDCAサイクルを踏まえ、徹底した見直しを図り、新規・継続事業の区別無く総合的に比較検討し策定することとする。
- ⑤ 事務局各部長は、所属各課の平成29年度決算結果及び平成30年9月までの事業評価を総括し、2019年度事業計画（予算）策定にあたっては、部単位を基本とし、次のとおりとする。
 - (1) 新規事業については、重点施策に基づく事業を優先し、別途事務局長に申請すること。
 - (2) 継続事業（経常的支出）については、2019年10月から予定されている消費税増税分を含めて、平成30年度当初予算額のゼロシーリングとする。
尚、これまでの事業内容を再度見直し、費用対効果を検証し、極力抑制に努めること。

(2) 重点施策事項

2015年4月のキャンパス再編成後の将来構想を策定するため、新たに「拓殖大学教育ルネサンス2020推進本部」を立ち上げ、2020年に向けての改革・改善実現のため「2020 TAKUSHOKU NEW ORANGE PROJECT」がスタートした。また、今後の財政の安定化を図ることを前提とする

「中期財政計画策定本部会議」を設置し、「中期財政構想推進部会」・「奨学金等学生支援経費検討部会」・「事務職員人事関係部会」・「八王子国際キャンパス部会」を中心に、中・長期的な管理運営に取り組んでいる。

2019年度は以下の事項を重点施策とする。

①中期財政計画の策定

18歳人口の更なる減少を踏まえた、2019年度以降の収入予測の策定と4か年ごとの財政見通しの確立と諸施策の検討

②八王子国際キャンパスの活性化と施設の整備充実

- (1) 八王子国際キャンパスにおける3学部（外国語学部・工学部・国際学部）の教育連携と施設の充実ならびに2020年度の新学科開設等の準備
- (2) 工学部の産学連携による活性化
- (3) 近隣高等学校との高大接続・連携の促進
- (4) 体育学生の教育支援と強化充実ならびに施設の整備
- (5) 地域連携センターを中心に各地域・関係機関との連携を図る

③大学に学ぶ志の高い学生の確保の観点から、入試広報、大学広報を積極的に展開する。

④グローバル人材育成強化（外国人留学生関連も含む。）の各業務の充実強化と新たな施策を展開する。

⑤就職に強い大学を目指し、従来の業務強化に加え、キャリア教育、企業開拓等の強化充実を図る。

⑥課外活動における学生の自主的諸活動の支援を図り、本学学生の規律と連帯感ならびに進取の気概を醸成する。

⑦手厚く充実した学生教育を展開し、留年者や途中退学者の減少を図る。

⑧公益財団法人「大学基準協会」の認証評価の結果を踏まえ、教学改革を行うとともに、引続き第三次認証評価に向けて作業に取り組む。

⑨北海道短期大学については、大学及び地域との連携を一層強化し、更なる教育の充実及び学生募集力の向上を図る。

⑩第一高等学校については、更なる教育の充実を図るとともに生徒募集力を高める。また、高大連携を進めるためにも従来以上に法人との連携を深め、その向上発展を図る。

◆平成31（2019）年度事業概要

平成31（2019）年度の主な事業は、以下のとおりとなっています。

1. 拓殖大学教育ルネサンス2020

◎八王子国際キャンパス整備事業

- ①八王子A館教室内装補修工事
- ②八王子A館女子トイレ改修・多目的トイレ設置工事
- ③八王子C館照明器具交換工事
- ④八王子C館空調設備更新工事
- ⑤麗澤会館女子トイレ改修工事
- ⑥学生交流会館部室棟防水補修工事
- ⑦陸上競技場整備工事

◎教育ルネサンスプロジェクト

- ①「英語力の強化・向上」、「実践的な職業教育の充実」、「ゼミナール教育の充実と強化」
- ②学部運営経費

◎2020 TAKUSHOKU NEW ORANGE PROJECT

- ①グローバル人材育成のための国際交流や海外研修、留学生教育の推進強化
(国際交流サロン「オレンジサロン」の充実、国際交流体験 他)
- ②学生生活充実のための支援活動
(地域貢献型ボランティア活動「釜石よいさ」、スポーツボランティア育成 他)
- ③就職活動やキャリア教育に関するサポート活動
(「社会人基礎力」の育成を意識したイベントの開催 他)
- ④スポーツ振興の推進～東京オリンピック・パラリンピックに向けて～
(スポーツオープンキャンパスの実施、スポーツフォーラムの開催 他)
- ⑤女子学生満足度向上のための諸活動
(OMOTENASHI T-girls シーズンイベントの開催、拓大産の野菜を使った料理教室 他)
- ⑥地域連携・防災推進～文京キャンパス～
(防災体験教室の開催 他)
- ⑦地域連携・防災推進～八王子国際キャンパス～
(八王子市学生消防団活動への参加、小中学生対象の理科教室 他)
- ⑧7グループ共通経費
(広報セミナー、拓殖人材育成広報会議 他)

◎その他

- ①大学基準協会第3期認証評価経費
- ②2020年度新学科開設準備経費
- ③商学部国際ビジネス学科オリエンテーション校外学習
- ④商学部、政経学部のネイティブ講師による英語科目の実施
- ⑤地方創生支援事業(地方と東京圏の大学生対流促進事業)
- ⑥文京C館マルチメディア設備更新
- ⑦統合学習支援システム改修
- ⑧八王子A館、C館、麗澤会館授業用ノートパソコン更新
- ⑨八王子工学部共通サーバ更新
- ⑩八王子工学部棟エレクトロニクス実験室I・II測定器更新
- ⑪八王子D館101、301～303教室プロジェクタ等更新・設置工事

2. 学生支援関連

- ①「学生チャレンジ企画」第10回記念事業
- ②デジタルサイネージ（電子掲示板）設備の拡充
- ③就職システムの機能追加及び新学籍システムとの連携
- ④学友会学習奨励金の新設
- ⑤文京留学生寮給湯設備更新工事
- ⑥八王子第一体育寮ルームエアコン清掃

3. その他の施設・設備関連

- ①文京設備維持管理（入退室監視装置、空調設備用自動制御機器 他）
- ②文京中央監視室照明制御装置部品交換
- ③八王子第一体育館温水ヒーター更新工事
- ④八王子学生交流会館冷温水発生機用クーリングタワー整備工事
- ⑤八王子学生交流会館加圧給水ポンプ更新工事
- ⑥北海道研修所飲料用給排水管改修工事

4. 設置校・その他

- ◎拓殖大学
 - ①課外活動ポータルサイト「拓大Active!」リニューアル
 - ②政経学部創設70周年記念事業
 - ③事務用プリンター更新
 - ④恩賜記念館講堂プロジェクタ更新
 - ⑤創立120周年に向けた各種広報活動の展開
- ◎北海道短期大学
 - ①体育館屋根改修工事
 - ②農場大型ビニールハウス更新
 - ③インキュベーター（恒温器）更新
 - ④暖房設備中央監視装置更新
- ◎第一高等学校
 - ①英語4技能検定受検の実施
 - ②大学入学共通テスト対応e-ポートフォリオの導入
 - ③コンピュータ教室PC・プロジェクタ等更新
 - ④校内LAN PC及びサーバ更新
 - ⑤校舎棟エアコンオーバーホール